





だけの日々が与えられるのか分かりません。しかしこの静かで穏やかな終の棲家を大切に、一日でも長く感謝の気持ちとともに暮らして行きたいと思います。

一人暮らしが困難になったら近くのケアホームに入れてもらおうような家族に頼んでいます。

**会員のエッセイ**  
**八十路にして妻に初恋？**

佐々木 晃一

家内とは結婚五十年以上を過ぎ、私も八十路を歩き始めておりますが、最近妻をいとおしい気持ちで募つてきて多少面食らつております。

家内とは見合い結婚で、結婚したての頃はそんなに惚れていた訳ではなく、家庭は、船頭多くして船山へ登るのではなく、船頭は一人それは自分であるとの思いから、家内になんり強く当たりました。ある時それが辛くて洗面所で歯を食いしばるようにして泣いていたのを見ての声がい



佐々木晃一氏の奥様

今でも耳によみがえります。しかし最近は何所仕事を、それとなく見ていると、腕まくりをして煮物などをしてしながら味見をして頷いていることもあります。これは私が気に入ってくれるであつたの意味と理解し、思わず実際に背中に手を合わせることもあります。先般は何か鬱屈気を感じたらしく「お父さん誰を拝んでいるの」と突然聞かれ慌てて手のひらがかゆかつたので、こすっていただけだよ」と返答したこともあります。

朝、目を覚まして二階から階段をトントンと降りてくる足音もさへも好ましく、時が来れば私の身体を安心して預けられます。また私の欠点のある行動に対してよく叱られますが、それも私を思ふ計つてのことと分かり、何度言われても反つて嬉しく感じる次第です。

私はまだ何の恩返しもしておりませんが（この投稿が恩返しの一つ？）対面での感謝の言葉も素直に述べる勇氣？もなく不甲斐ないことです。

妻はいつまでも年を取らない存在であると思つていました。が、さすがに年相応の生活を送るようになって

きており、お前日までわしや九十九まで、私の夢は時が来たらその車椅子を押すことです。

以上、大同小異世の男性諸子も、似たような考えをお持ちの方が多いのではないかと思います。それではおのろけ話の一席、誠にお退屈さまでした。

**サークル活動報告**  
**易しい科学の話**

**講師 吉岡 芳夫**  
九月二十四日(水)「高年齢になるとなぜ耳が遠くなる?」というテーマでお話をしました。最初に、低周波数から高周波までの音が聞こえるかどうかをテストしましたが、高齢者には限界と思われた八千ヘルツの高音が聞き取れる人もいて案外皆さんは耳が良いことが分かりました、

ついで、耳が聞こえる原理をわかりやすい動画で紹介しました。外耳道を通った音は、鼓膜を揺らし、その振動が耳小骨という三つの小骨を伝わって、音を脳への電気信号に変える蝸牛という器官に達します。その器官には、例えると全面に芝生が生えたのようなか

たちで有毛細胞が並んでいて、この細胞を音波が押し付けることによって電気信号が発生、それが脳に伝わって人は音を感じることが出来るのです。高齢者が聞こえづらくなるのはその有毛細胞が壊れていくためであることも難聴者の有毛細胞の顕微鏡写真で学ぶことが出来ました。蝸牛に振動を与えれば音は聞こえるので、顔の骨に振動を与えて音を聞く骨伝導イヤホンを体験することも出来ました。

川柳同好会

九月の優秀句

やる気なし出る気もなしや  
この暑さ

高谷三恵子

万博に行きたい思いの  
繰り返し

尾野フミ子

涙した「蛍の墓」観て  
終戦日

山田 良彦

一日でバケツ一杯  
飲む猛暑

南部 歳子

マッカーサー去りて  
あれから八十年

尾野 忠男

年重ね 書く読む事も  
迷いつつ

中野ふさゑ

|                      |       |                      |       |                     |       |                      |       |                       |       |                            |      |                        |       |                     |       |                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                    |
|----------------------|-------|----------------------|-------|---------------------|-------|----------------------|-------|-----------------------|-------|----------------------------|------|------------------------|-------|---------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 見比べて一cmでも長い<br>ゴボウ買う | 新田ヨシエ | 解党的<br>出直し自民<br>二度三度 | 澤村 玲子 | 若者の<br>浴衣が歩く<br>夏花火 | 吉田美恵子 | 誰だっけ<br>頭の中は<br>フル回転 | 吉岡 芳夫 | 耳年増<br>年増となりし<br>今はババ | 大久保節子 | おはぎだよ<br>ばたもちじゃ<br>ないよ白露だよ | 大野 勉 | 頑張った<br>甲子園の砂<br>ほこりだね | 加藤みや子 | 栄冠は<br>土鍋巻いて<br>輝いた | 小林 久子 | <p> <b>計報</b><br/>           当会設立当初からの会員<br/>           で、長い間習字教室を開き、<br/>           美しい文字の書き方を指導<br/>           して下さっていた村上碩子<br/>           さんが、九月十三日に永眠<br/>           されました。ご功績に感謝<br/>           し、謹んでご冥福<br/>           をお祈り<br/>           いたします。         </p> |  |
|----------------------|-------|----------------------|-------|---------------------|-------|----------------------|-------|-----------------------|-------|----------------------------|------|------------------------|-------|---------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|

交通法の「一時停止」を挙げられました。これは、車が少しでも動いていれば一時停止とは認められず、完全に止まらなければ違反になること、歩行者にも義務があり、横断歩道から外れた場所で渡れば過失が問われるそうです。つまり事故は運転者だけでなく歩行者側の行動にも責任が伴うのです。

交通事故はなくならないもの、と高橋さんは言います。被害者になった場合には必ず医師に診断書を書いてもらい、警察に届け出ることが必要です。その後、加害者に対してどのような処分を望むかを警察に伝える場面もあります。

運転者には刑事上、民事上、行政上の三つの責任が課せられ、最終的には裁判所が判断します。ここで高橋さんは、長年の保険業務の中で特に印象に残っている三つの事故例を紹介されました。一つ目は、大学生が幹線道路を斜めに横断してはねられ、命を落とした事故です。被害者にも過失が認められ、加害者の刑事処分は免許停止六か月で済みました。遺族は大変辛い半年をかけて保険会社と示

談に至ったそうです。二つ目は、シヨッピングセンター近くで自転車をはねて逃走したひき逃げ事件。後続車が必死に追いかけて、駐車場ですぐと停車させました。加害者は懲役二年半、執行猶予五年の判決を受けました。三つ目は、反社会的な人物が被害者となった事故。示談交渉では「男としての価値打ちがなくなった」と主張し、最終的に三百万から四百万円で解決したそうです。当時はこうした言い分が常套手段だったとのことでした。これらの事例は、事故が誰にでも起こり得ることを強く印象づけました。

高橋さんご自身も、現在八十八歳。免許は返納せず運転を続けていますが、独自のルールを徹底しておられるそうです。「時速五十キロ以上は出さない」「高速道路には乗らない」「一時停止は必ず完全に止まる」など、安全第一の徹底です。「高齢者は運転方法を根本から変えることで、まだ安全に運転できる」と力を込めて話されました。

さらに、事故の被害者になった場合の補償についても説明がありました。通院一日あたり六千百円、入院して家族が付き添えば四千

二百円、自宅での看護でも二千五百円が支払われること、また休業補償もあり、制度を正しく知ることは安心につながると語られました。

最後に福井県内の交通事故状況にも触れ、「今年は昨年よりも事故が増えていきます。だからこそ、道路交通法を学び直し、安全運転を習慣にしてください」と結んで講演を締めくくられました。

保険や交通事故は誰にとつても身近で切実な問題です。高橋さんの実体験に裏付けられたお話は、聴衆に深い印象を残し、今後の生活に役立つことと思えます。

事故と保険の話の後、スポーツ万歳として、大谷翔平の活躍が、日頃の生活態度や鍛錬、そして野球監督だった父親の指導で左バッターになったおかげであること、コマーシャルによる経済効果が莫大なことが紹介され、併せて地元のスポーツ選手、山口茜、吉田正尚、大藤沙月の活躍にも、注目してほしいと語られました。（文責 吉岡 芳夫）

### ウクレレの演奏

高橋氏の講演の後、横浜

でお仕事をづけながらストリートミュージックもやっておられるという当会大野顧問のご長男の泰宏さんが特別に参加され、ウクレレについて解説されました。そして、三種類の和音(コード)を弾くだけで、歌の伴奏ができることを紹介され、童謡の「故郷」、「浜辺の歌」、「富士山」など四曲を演奏、参加者らは、それを伴奏として唄うことが出来ました。

**リレー随筆**

**なぜここに居を構えたか**

**富士 佑子**

福井駅前のレストラン五階に移り住んで、早くも一年が過ぎました。しかし友達もでき、買い物も近く暮らしは快適そのものです。街の便利さに助けられながら安心した日々を送っています。

思い返せば以前、雪で滑って転び右手首を骨折し長く入院したことがありました。子どもたちや兄弟から、冬の雪が降る間三か月ぐらい、東京に住むよう勧めてくれますが、その気遣いは有りがたいのですが、費用も大変ですし、雪さえ降らなければ、福井は本当に良い所

なのにいつも思っていました。今はかつて雪に悩んだ日々を思うと夢のようです。

春が来て緑が萌え出る頃になると、福井にいてよかったと心から思います。かつての家の庭で、りんごの花を眺めたり、また花や野菜を育てたりしていると、季節の恵みを感じます。夏の水やりに行くのもちようど良い散歩距離でもあります。年齢を重ねるにつれ、どこでどうして暮らして行くかは、自分の生き方の尊厳そのものに関わる大切な選択であると実感しています。

若い頃はあまり深く考えず、仕事や家庭の忙しさの中で自然に生活の場と決めていました。残りの時間をどこでどんな思いで過ごすか？

このマンションを選んだのは、子供たちには子供たちの生活があり、それぞれの人生があります。その暮らしに入り込みすぎることなくこの場所をみつけれられたことは、大きな安心となりました。これから先どれ